成人の学習行動の分析に関する基礎的研究（Ⅰ）
——御殿場市における生涯教育調査を中心として——

A Study on the Analysis of Learning Activities of Adults（1）
——Based on the Survey of the Life-long Education in Gotenba——

角替弘志・馬居政幸

Hiroshi TSUNOGAE and Masayuki UMAI

（昭和58年10月11日受理）

1．研究の背景と意図

「複雑に変化する社会環境の中で，国民の一人一人が各人の様々な生活課題に応じて必要な学習を行い，それぞれの個性・能力を伸ばし，生きがいのある充実した生活を享受できるようにすること」は緊要な課題であると考えられている（中央教育審議会「生涯教育について」昭和56年6月答申）。我が国においては「個人が人生の比較的早い時期に得た学歴を社会がややもすれば過大に評価する、いわゆる学歴偏重の社会的風潮」が顕著にみられ，学校教育に対しては極めて強い関心が向けられている。しかし，今日のような変化の激しい社会にあっては，「学ぶ」ということが，学校を卒業することによって終るものではないという理解も急速に広がりつつある。人々は「あらゆる年齢層にわたり，学校はもとより，家庭，職場や地域社会における種々の教育機能を通じ，また，各種の情報や文化的事象の影響の下に，知識・技術を習得し，情操を培い，心身の健康を保持・増進するなど，自己の形成と生活の向上とに必要な事を学ぶ」（同前）と認識するようになり，それゆえに，「自己の充実・啓発や生活の向上のため，人々が各人の自発的意思に基づいて自ら選んだ自己に適した手段・方法によって，生涯を通じて学習を行うこと」（生涯学習）の必要が強く感じられるようになっている。生涯教育は「生涯学習のために，自ら学習する意欲と能力を養い，社会の様々な教育機能を相互の関連性を考慮しつつ総合的に整備・充実しようとする」こと（同前）であるとされるが，このような課題に対処するために教育制度を具体的にどのように構築すべきかが多面的に検討されなければならない。

生涯学習（生涯教育）が今日求められる理由としては「激変し国際化する現代社会を生き抜くため—知的生産力の向上と技術革新」「現代文化を享受し，生活の充実感を高めるため—生活の余裕と選択範囲の拡大」「人々とのより緊密な結びつきを育てるために—コミュニティの形成と人間性の回復」があげられる（静岡県生涯教育研究懇談会「本県における生涯教育のあり方について」昭和52年9月）。このような教育的要請に対しては，単に各種の学校を増設し多様な社会教育施設を各地に配置することだけで対処できるわけではない。成人の学習要求が各人の置かれた状況に応じて極めて多様なものになっているだけでなく，都市化，職業の専門化，職住分離化，核家族化等の進行の中で人間形成に果す機能的教育の占める位置は低下しており

（家庭，地域社会の教育機能の低下），従来は意図的・計画的に行うことなど考えられなかった面についても，意図的・組織的に教育を行うことが必要とされてきているのである。

生涯教育的視点に立って教育機会を制度的に整備するためには，人々の教育に対する期待が明確にされていなければならない。しかし，現実には子弟に対する教育のみならず，自らの教育に対しても，人々は大きな期待を持っていると考えられるにもかかわらず，その期待が具体的にどのようなものであるかは必ずしも明確にとらえられていない。また，教育概念が拡大されてきている状況の下で，人々は自己自身の形成にとってどのような教育が意味を持つかを十分に自覚的に把握しているとは言えない状態もみられる。現象的には高齢者を含め多くの成人が学習の意欲を示し，実際にさまざまな学習活動に参加している。我が国においては「国民の多様な学習意欲の高まりや教育に対する強い関心・要求に対応して，それを充足する様々な学習機会が提供されている」（中央教育審議会「生涯教育について」）と述べられてもいる。ただ，このような現象がみられるから教育機会は十分に適切に用意されているということにはならない。むしろ，このような現象を手掛りに，人々の中にみられる学習意欲や実際に行った学習活動の分析を通して，人々の生涯学習に対する意思や生涯教育に対する期待が明確にされ，それが教育機会の制度的充実・整備に生かされなければならないと言えるのである。

本研究は，御殿場市における「生涯教育に関する意識調査」に基づき，人々の学習に対する期待や意思（学習意思）を，主として学習行動の分析とその類型化によって明らかにしようとしたものである。学習意思を全体的に把握するためには（学習意思は必ずしも本人によって意識され自覚されているとは限らない，意識されないまま潜在している場合もある），学習条件（生活条件，情報獲得条件，情報処理条件等），学習機会（学校，社会教育施設，社会教育関係団体，文化団体，体育団体，有志団体〈サークル活動〉，職場，情報媒体等），コミュニティ活動（地域組織，地域活動・行事，ボランティア活動等）の面から総合的に見なければならないし，また学習意思の構造をとらえるためには，学習活動への参加の実態，学習の必要性についての意識，学習に対する意欲（顕在している学習希望，潜在している学習希望）について検討することが必要である。そのことからすれば，本稿は学習意思の基礎的部分についての検討であるということができる。

なお，本研究においては「学習」の意味を広く理解しようとした。一般に教育研究の中では，「学習活動」は「知識・技術等を身につけるために何かを学ぶこと」と説明される。体系的に継続して何かを学ぶことが「学習」という言葉には最もかなっているように感じられる。しかし，「学習」が能力の伸長や態度の変容をもたらすものであるとすれば，体系的・継続的学習（狭義の学習）だけが「学習」ではなくなる。ことに成人においては狭義の学習の機会を持つことは極めて限られる。それにもかかわらず，成人期になって人格の円熟味が増すといわれるように，能力の伸長は見られるのである。家庭生活を営み，職業にたずさわり，地域活動に参画している中で，多くの「学習」を積重ねているということができる。ただ，あまりにそのように広げると，あらゆる生活の場面が学習の場面になってしまう。学習機会を設けるということは職業に没頭することでも，日常生活を真剣に営むということでもない（そのことは教育的に極めて重要であるが）。ただ，職務にかかわる研修をすることや視察をすること，家庭生活の問題を話合ったり，地域の様々な問題を改善するための相談をしたり，その結果を評価しあったりすることは，たとえそれが体系化されず継続的に行われるものでないにしても，広い意味で「学習」と考えることが適切であると思われるのである。生涯教育は生涯にわたる人格形成と一体

になったものであり，その意味で学習機会や学習行動も広くとらえられる必要があるのである。

2．調査の概要

1）調査の内容

上記の意図にもとづき，我々は次の4領域からなる質問を設定した。

① 学習行動

まず成人の「学習行動」の実態を明らかにするため，上述したように一般に成人が行うと思われる広義の学習場面を30項目（表2－1）用意し，それぞれの項目について，昨年一年間の行動の有無を設問した。

表2－1　「学習行動に関する質問表」

I　昨年1年間にあなたは、次のことをしましたか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけて下さい。

1.家庭教育学級、青年学級、父親学級、婦人学級、高齢者学級などの学級に参加しましたか。…… 1.はい　2.いいえ
2.先生について習いごと(華道、茶道、謡曲など)をしましたか。…… 1.はい　2.いいえ
3.図書館に行きましたか。(どこの図書館でも、どんな目的でもかまいません。)…… 1.はい　2.いいえ
4.テレビやラジオの教育番組などを利用して、つづけて何かを勉強しましたか。…… 1.はい　2.いいえ
5.通信教育を利用して、つづけて何かを勉強しましたか。…… 1.はい　2.いいえ
6.民間のカルチャー・センターで勉強しましたか。1.はい　2.いいえ
7.免許や資格(自動車、珠算、簿記、保母、など)を取るために個人で勉強しましたか。…… 1.はい　2.いいえ
8.免許や資格(自動車、珠算、簿記、保母、など)を得るために学校に通いましたか。…… 1.はい　2.いいえ
9.職場や自分の属している団体(農協、婦人会、青年団など)の研修会・講習会に参加しましたか。… 1.はい　2.いいえ
10.研修や視察のための旅行をしましたか。…… 1.はい　2.いいえ
11.講演会に行きましたか。(どんな内容の講演でもかまいません)…… 1.はい　2.いいえ
12.音楽会や演劇(芝居)舞踊などの会(歌謡曲やロック、民謡などどんな内容のものでもかまいません)に行きましたか。…… 1.はい　2.いいえ
13.展覧会に行きましたか。(どんな展覧会でもかまいません)…… 1.はい　2.いいえ
14.スポーツの試合の観戦にでかけましたか。(どんな競技でもかまいません)…… 1.はい　2.いいえ
15.美術館や博物館に行きましたか …… 1.はい　2.いいえ
16.個人やグループ・団体で文化祭や音楽会や演劇会、放送などに出場(出演)しましたか。(どこで開かれたものでも、ブラス、フォーク、民謡、落語など、なんでもかまいません)…… 1.はい　2.いいえ
17.展覧会や文化祭などに自分の作品を出品しましたか。(どこで開かれたものでも、絵画、書道、写真、洋裁など、どんな分野の作品でもかまいません)…… 1.はい　2.いいえ
18.俳句、短歌、随筆など自分で書いたものを同人誌、雑誌、新聞などに発表しましたか。…… 1.はい　2.いいえ
19.個人やグループ・団体でスポーツの大会に出場しましたか。(どんな規模の大会でもかまいません。また、バレー、ソフト、ゲートボールなど、どんなスポーツでもかまいません。)…… 1.はい　2.いいえ
20.ボランティアとして福祉的な活動をしましたか。1.はい　2.いいえ
21.趣味(料理、囲碁、手芸など)のグループに入って、勉強しましたか。(職場のグループ、地域のグループなど、どんなグループでもかまいません)…… 1.はい　2.いいえ
22.体育・スポーツのグループ、クラブ、サークルなどに入って運動をしましたか。(職場のグループ、地域のグループなどどんなグループでもかまいません)…… 1.はい　2.いいえ
23.健康のため、自分1人でなにか運動をつづけましたか。(たとえばジョギングなど)…… 1.はい　2.いいえ
24.自分の趣味や関心のあることについて自分1人でつづけて勉強をしましたか。…… 1.はい　2.いいえ
25.地区の公民館に行きましたか。(どんな目的でもかまいません)…… 1.はい　2.いいえ
26.地区の祭りや体育祭・文化祭などに行きましたか。…… 1.はい　2.いいえ
27.地区の清掃活動や防災活動に参加しましたか。　1.はい　2.いいえ
28.子ども会活動や交通安全指導など地域の青少年のための活動に参加しましたか。…… 1.はい　2.いいえ
29.青年団、婦人会、老人会などの地域の団体の会合に出ましたか。…… 1.はい　2.いいえ
30.地区や隣組の会合に出ましたか。…… 1.はい　2.いいえ

② 学習意識

学習に対する「意識」を把握するために，同じく広義の学習における様々な学習観と，それに関わる社会観，子ども観，父親観など56項目（表2－2）を提示し，それぞれへの評価を4段階（そう思う・どちらかというとそう思う・どちらかというとそう思わない・そう思わない）において設問した。

表2－2 「学習意識に関する質問表」

Ⅰ 次のことについて、あなたはどのように思いますか。「そう思う」場合は1に、「どちらかというとそう思う」場合は2に、「どちらかというとそう思わない」場合は3に、「そう思わない」場合は4に○印をつけて下さい。

	そう思う	そう思うどちらかというと	そう思わないどちらかというと	そう思わない
1．現代は社会の変化が激しい時代である。	1	2	3	4
2．社会の変化についていくのは大変なことだと思う。	1	2	3	4
3．これからは、学歴よりも実力が重視されると思う。	1	2	3	4
4．これからの社会では学校の勉強で得た知識や技術だけでは不十分である。	1	2	3	4
5．これからは生活がますます便利になるので、勉強はあまり必要でなくなる。	1	2	3	4
6．仕事(職業)についての勉強をいつもしていないと皆から置き去りにされてしまう。	1	2	3	4
7．仕事(職業)のためなら無理をしてでも勉強すべきだと思う。	1	2	3	4
8．資格や免許はできるだけとっておいた方がよい。	1	2	3	4
9．日常生活のなかで、幅広い知識や教養が必要である。	1	2	3	4
10．幅広い知識を得たり教養を高めるために、生涯にわたってたえず学習することは必要なことである。	1	2	3	4
11．これからは、自由な時間(余暇)が増えると思う。	1	2	3	4
12．生活のゆとりは、趣味や楽しみを持つことから生まれる。	1	2	3	4
13．趣味や楽しみには、時間や経費を惜しむべきではない。	1	2	3	4
14．仕事はほどほどにして、のんびりやっていくのがよい。	1	2	3	4
15．地域の人々とのつながりは薄くなってきている。	1	2	3	4
16．近隣の人々との付き合いはわずらわしく面倒だ。	1	2	3	4
17．子供は遊ぶことより、まず勉強することが大事だ。	1	2	3	4
18．子供が学校で熱心にクラブ活動をすることは良いことだ。	1	2	3	4
19．子供は地域の活動(清掃活動、祭りなど)にもっと参加すべきだ。	1	2	3	4
20．子供には家庭で親の手伝いをさせるべきだ。	1	2	3	4
21．子供は、自由にのびのびと、なんの束縛もせずに育てるのがよい。	1	2	3	4
22．これからは婦人(主婦も含め)も職業をもった方が良い。	1	2	3	4
23．主婦が婦人会や婦人学級の活動に積極的に参加することは望ましいことだ。	1	2	3	4
24．主婦が趣味をもったり、スポーツをしたりすることは良いことだ。	1	2	3	4
25．主婦にとって家事や育児が最も大切な仕事で手抜きがあってはならない。	1	2	3	4
26．青年団で活躍する青年を好ましく思う。	1	2	3	4
27．高校生や大学生は、地域の活動(清掃活動、祭りなど)にもっと参加すべきだ。	1	2	3	4
28．青年の時期(高校生、大学生を含む)には、もっぱら学校の勉強や自分の仕事に打ちこむべきである。	1	2	3	4

29. 自分のしたいことができるのは青年(高校生、大学生を含む)のころしかない。	1	2	3	4
30. 青年が自分達のしたいことを思いきりするのは多少行き過ぎがあっても容認すべきだ。	1	2	3	4
31. 老人の知恵や能力をもっと社会に生かすべきだ。	1	2	3	4
32. 祖父母が孫の面倒をみることは良いことだ。	1	2	3	4
33. 老後のために早くから自分一人で楽しめる特技を身につけておく方がよい。	1	2	3	4
34. 老人は老人だけで、何かをすることが良い。	1	2	3	4
35. 日常生活の中で、地域の人達はいつも助け合わなければならない。	1	2	3	4
36. 地域の仕事(祭りや体育大会)や活動(清掃、防災活動)に参加することは大切なことだ。	1	2	3	4
37. 地区や隣組の会合には家族の誰かは必ず出席すべきである。	1	2	3	4
38. 父親(夫)は家庭での家事をしなくても当然だ。	1	2	3	4
39. 父親は子供の教育に積極的にかかわるべきである。	1	2	3	4
40. スポーツをするのは試合に勝つためである。	1	2	3	4
41. スポーツの練習は技量を高めるためにするものである。	1	2	3	4
42. スポーツは健康を保つためにも必要である。	1	2	3	4
43. スポーツの良さは沢山の仲間を得ることができることにある。	1	2	3	4
44. 趣味やスポーツは自分の楽しみにするものだから、経費などはすべて自分で負担すべきである。	1	2	3	4
45. 市町村が住民の趣味的な学習やスポーツを奨励するために、いろいろな援助をすることは必要なことだ。	1	2	3	4
46. 御殿場市では成人の学習活動は盛んに行われていると思う。	1	2	3	4
47. 勉強する機会や場は、御殿場市に沢山あると思う。	1	2	3	4
48. 気軽に図書館などに行って勉強してこようという雰囲気が市民の間にある。	1	2	3	4
49. 学習についての情報を得ることは容易である。	1	2	3	4
50. 御殿場市の文化活動は盛んだと思う。	1	2	3	4
51. 学校(小・中・高等学校)は児童・生徒だけでなく、地域住民にもっと開放されるべきだと思う。	1	2	3	4
52. 教養を高めたり趣味を広げたりするために、学級や講座が教育委員会によってもっと開かれるべきだと思う。	1	2	3	4
53. 御殿場市には文化施設が十分にあると思う。	1	2	3	4
54. 御殿場市には住民が十分に利用できるだけの体育・スポーツ施設があると思う。	1	2	3	4
55. 地区の公民館は、地区の人々のつながりを深めるために十分に活用されていると思う。	1	2	3	4
56. 地域の仕事や活動よりも個人的事情を優先すべきである。	1	2	3	4

③ 学習希望内容とその欲求の程度

一般的な学習観（学習意識）に対し，具体的，かつ潜在的な学習希望欲求を明らかにするために，NHK・放送世論調査所による「学習関心調査」（NHK『放送研究と調査』'83. 5）を参考にして，6分野・370項目にわたる小分類の学習項目を提示し，希望する学習項目を設問した。さらに，「特に学んでみたい」項目3つに対し，その学習の「目的」「形態・方法」「費用」「開始時期」を問うことから，欲求度の程度の把握を試みた。尚，この質問の結果に対する分析は今回行わないため，具体的な学習項目，質問内容については省略する。

④ 対象者の基本的な属性

調査対象者の基本的属性把握のため，「1.性別」，「2.年齢」，「3.家族数」，「4.学歴」，「5.収入」，「6.余暇状況」に関するを質問項目を用意した。

2）調査対象者，実施方法，時期

調査対象者は，まず，御殿場市内において，農村地域の代表として深沢地区，商店街の代表地域として森の腰，住宅街の代表として北畑の三地区を選び，それぞれの地区から明治生まれの人を除いた20歳以上の男女各200名，計600名を等間隔，無作為にて抽出することから確定した。

そして，上記当該地区の区長を通じ，質問紙を昭和58年3月15日～20日の間に配布，1週間後，同じく区長により回収，不良票を除いた有効票数は552である（回収率92%）。

3）調査対象者の特性

調査の結果明らかになった対象者の基本的属性について，以下図示する。

対象者の特性（図2－1～7）　　（　）内はパーセント

図2－1　「性　別」

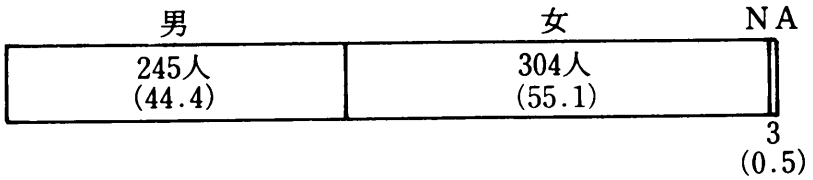


図2－2　「年　齢」

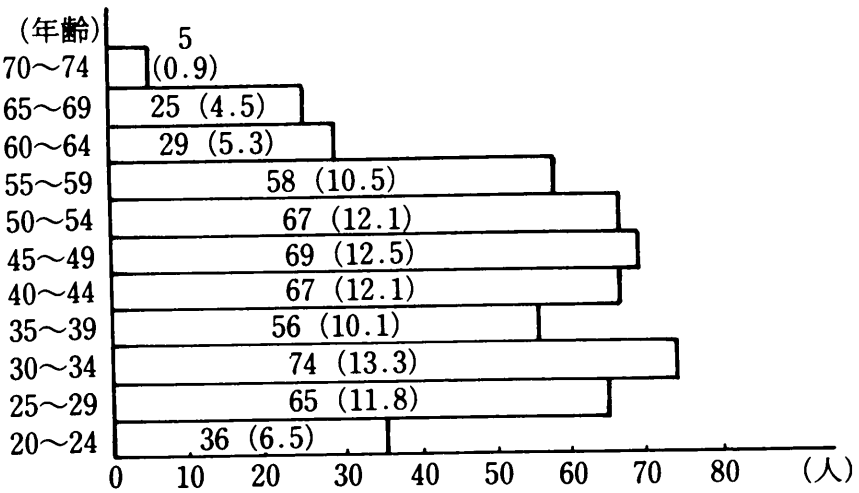


図2－3　「家族数」

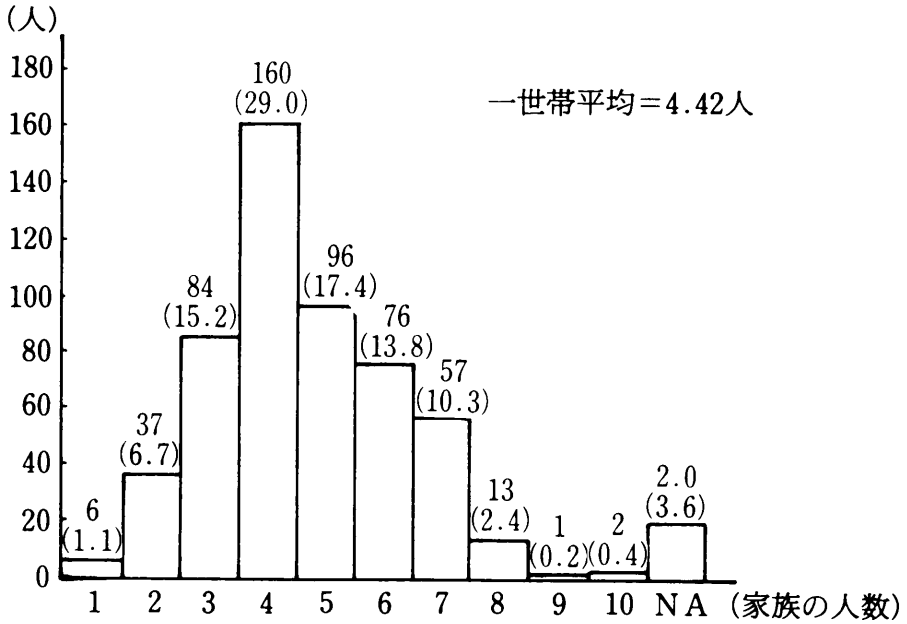
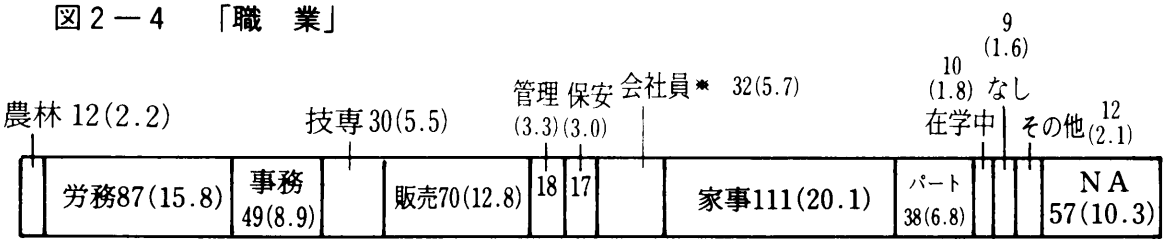


図2－4　「職　業」



※フリーアンサーのため、会社員とのみ記された職種分類不可能なものは「会社員」として一つにまとめた。

図2－5　「学　歴」

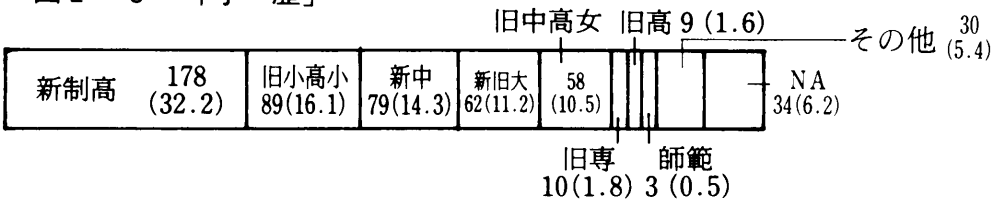


図2－6　「収　入」

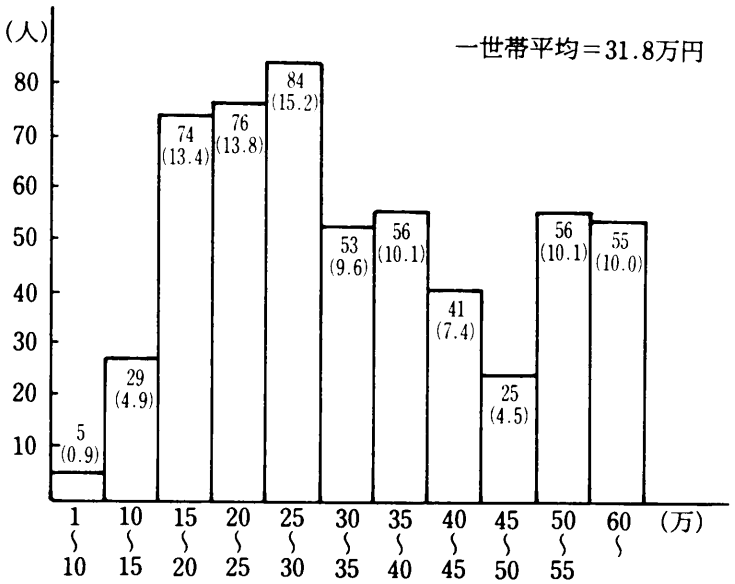
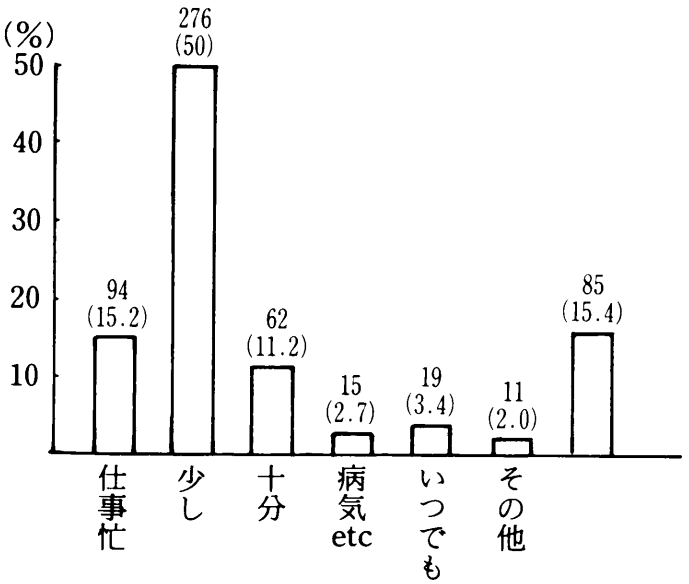


図2－7　「余暇の状況」



3．調査結果の概要

1）学習行動の特性

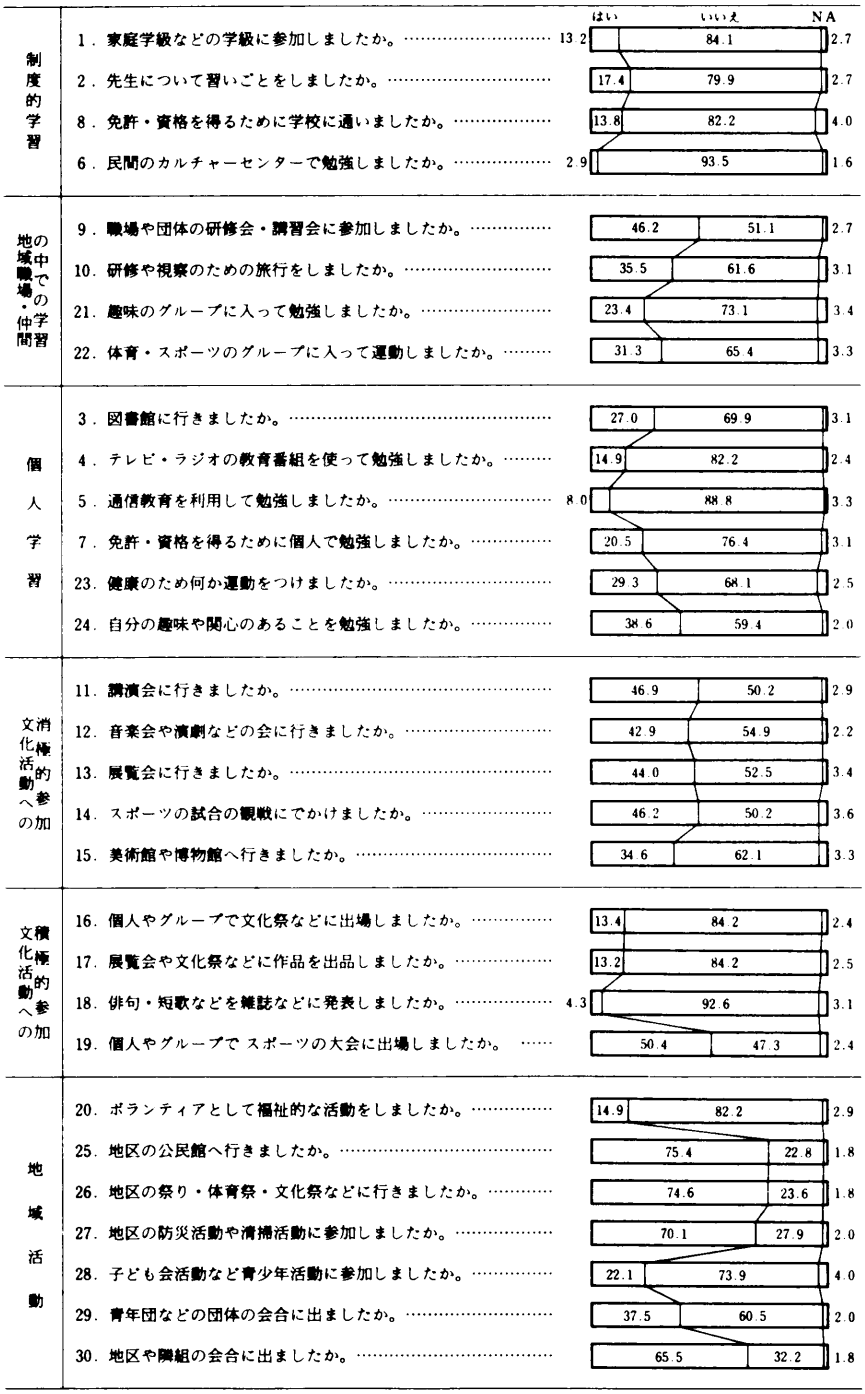
前節において提示した（表2－1）学習行動の調査結果を，領域別に整理し図示したのが図3－1である。以下，その特色を簡単に記しておきたい。

ア）集団，個人を問わず，狭義の学習への行動（明確な目的意識のもとでの学校等による継続的系統的学習）は低いが，職場・地域の仲間との関係や，趣味の範囲での個人的学習など広義の学習行動は認められる。

イ）文化活動に対し，消極的参加（鑑賞など）は半数近いが，積極的参加は低い。

ウ）地域活動への参加は極めて高いが，対象者や目的が限定された活動への参加度は落ちる。

図3－1　「学習行動の有無」



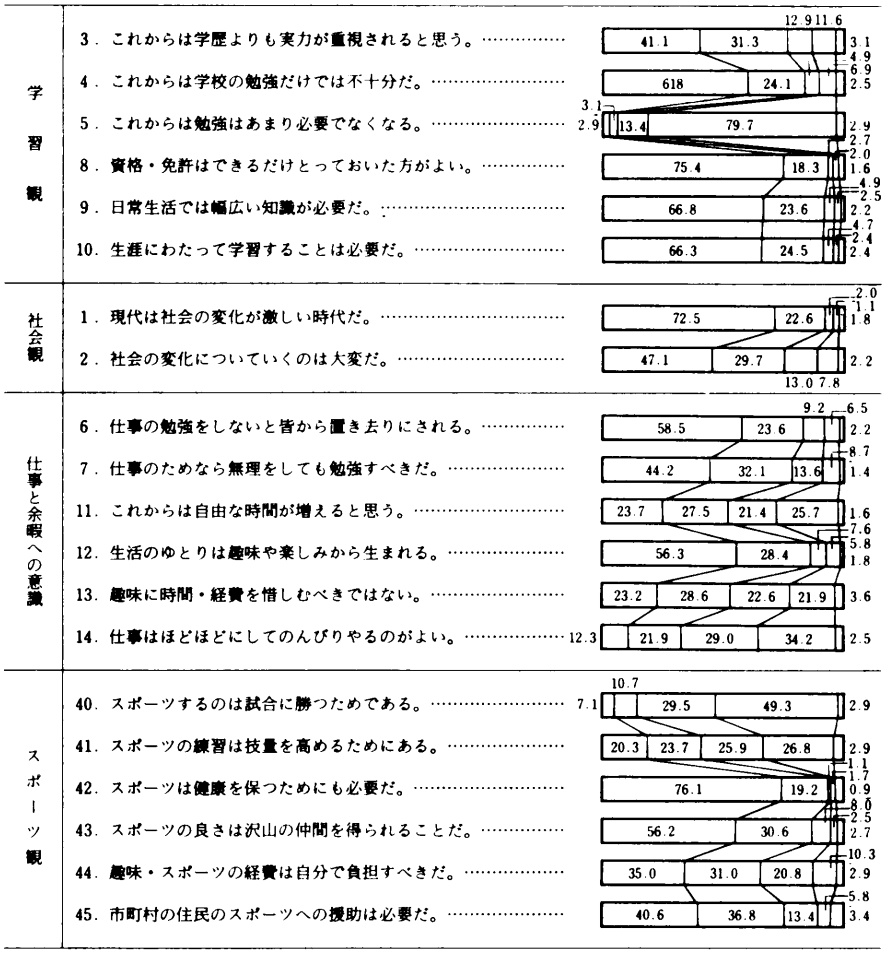
2）学習意識の特性

学習行動と同様に，図3－2～5に基づき，学習意識の特色を以下簡単に記しておきたい。

ア）学習観を見るに，知識，教養あるいは学習団体への欲求度は高い。他方働くこと自体や仕事と関係する学習に対しても，かなり積極的である。しかし，余暇のあり方との関わりについては意見がわかれる。

イ）スポーツ観については，一般的な健康の保持や仲間の獲得という点では大多数が肯定するが，より具体的な，技量，勝負，経費負担という点では答えがわかれる。

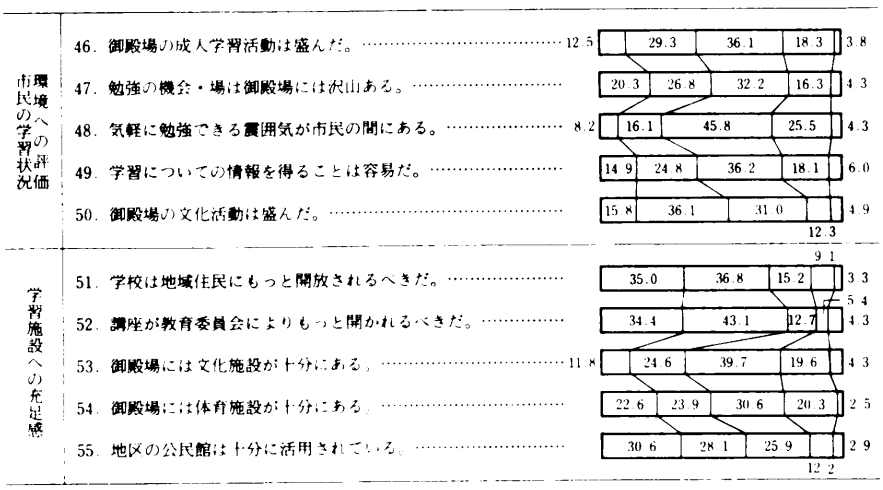
図3－2　「学習・スポーツ観」



ウ）市民の学習行動への一般的評価は低くないものの，個別的，具体的な行動に対する評価は低くなる。

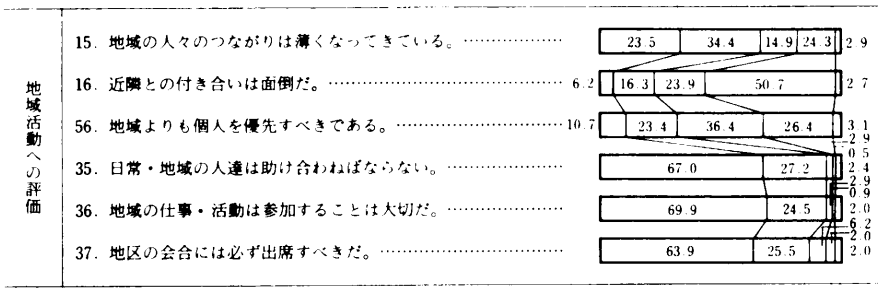
エ）同じく，御殿場市の学習環境（情報量，学習機会，施設など）への評価も特に低いわけではないが，その利用度，活用度や学習欲求の高さに比較すれば，不満度が高い。従って行政に対する要求は高い。

図3－3　「学習状況への評価」



オ）地域活動参加への評価は非常に高い。しかし，個別的，具体的な現実の行動のレベルの評価については意見がわかれる。

図3－4　「地域活動への評価」



カ）世代別行動様式への価値意識

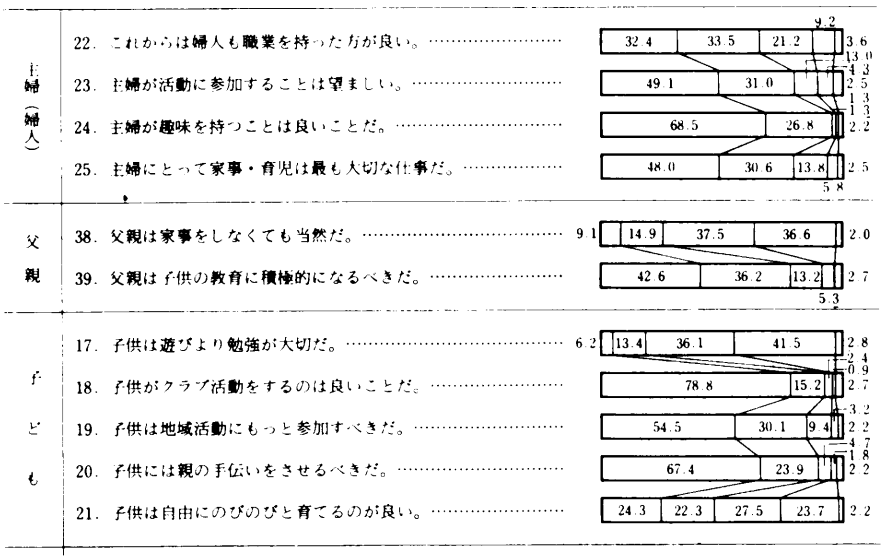
母親……伝統的役割から離れようとする指向性は認められるが，全体として家庭を守ることが前提となる。

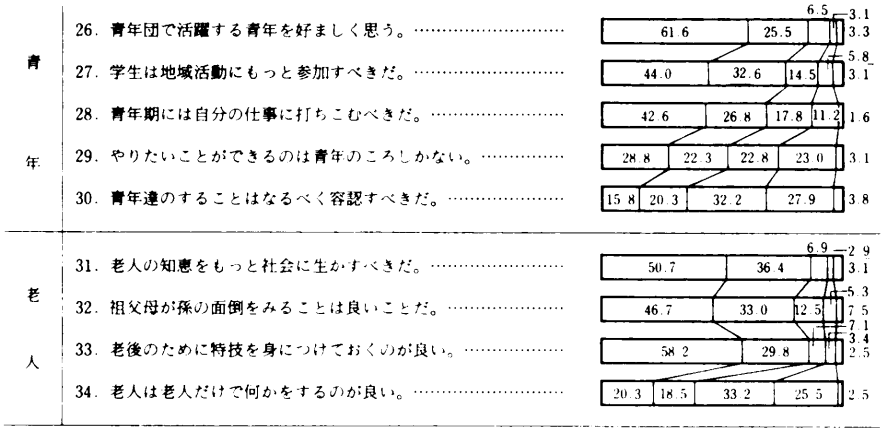
子ども…勉強より遊び，クラブ活動，地域活動，親の手伝いを重視するが，育て方については意見が分れる。

青年……地域活動参加や仕事中心を評価し，自由に行動することの評価はやや厳しい。

老人……社会的参加への要求は非常に高く，老人だけが集まることについてはやや否定的である。

図3－5　「世代別意識」





4．学習行動の類型化

これまで学習行動と学習意識の全体的傾向について略述してきた。更に通常の調査分析では上述の個々の項目相互の，あるいは属性とのクロス集計などにより，より詳細な吟味が行われることが多い。しかし，本調査の意図は第一節に明示したように，「学習意思」把握のための基礎作業の一つとして、様々な学習行動が全体としてどのような連関と構造を持っているかを、その類型化を通じて解明することにある。そのために必要なことは複雑多様な現象の中に潜在する基準を見つけ出し，それに基づき整序することから，特定のまとまりを見出すことが可能になる方式である。その方法として，ここでは多変量解析の一つである数量化第III類による分析を試みた。

表4－1は30種類の行動の質問それぞれ「はい」(a) と答えた者と「いいえ」(b) と答えた

表4－1「カテゴリー・ウェイト値」

カテゴリー	第 I 軸	第 II 軸	第 III 軸
1－a	0.0640772	0.0359833	0.0885114
2－a	0.0631309	−0.0874969	0.1054374
3－a	0.0836421	−0.1187534	0.0039558
4－a	0.0755097	−0.0735194	−0.0289073
5－a	0.0296645	−0.0512307	−0.0193972
6－a	0.0164949	−0.0240576	0.0028761
7－a	0.0690352	−0.0936184	−0.0957335
8－a	0.0411421	−0.0821996	−0.0333384
9－a	0.2004214	0.0058791	−0.0896227
10－a	0.1681391	−0.0183700	−0.0744638
11－a	0.1895877	−0.0455536	0.0718493
12－a	0.1248861	−0.1479063	0.2247193
13－a	0.1871826	−0.1063448	0.1126977
14－a	0.1698452	0.1270033	−0.2213838
15－a	0.1570494	−0.1903138	0.0709702
16－a	0.0805838	−0.0610309	0.0295183
17－a	0.0815076	0.0017491	0.0885374
18－a	0.0151036	−0.0252441	0.0091280
19－a	0.1519598	0.1373615	−0.3518808
20－a	0.1079034	−0.0221307	0.0305831
21－a	0.1222688	−0.0650978	0.0606587
22－a	0.1304510	0.0214065	−0.3331159
23－a	0.0966616	0.0085352	−0.1258799
24－a	0.1327127	−0.1646854	−0.0371714
25－a	0.1463334	0.2329990	0.0738291
26－a	0.1396980	0.2109567	0.0471852
27－a	0.1082773	0.2658346	0.1353013
28－a	0.1036261	0.1045027	0.0627484
29－a	0.1458801	0.2003192	0.1524269
30－a	0.1426578	0.2576006	0.1392047

者に対し，数量化第III類による分析の結果，各質問項目に与えられた3つの数値（カテゴリーウェイト値)の一覧表である。この三種の数値は，いわば30種類の行動を分類するための三本の軸上に与えられた数値である。

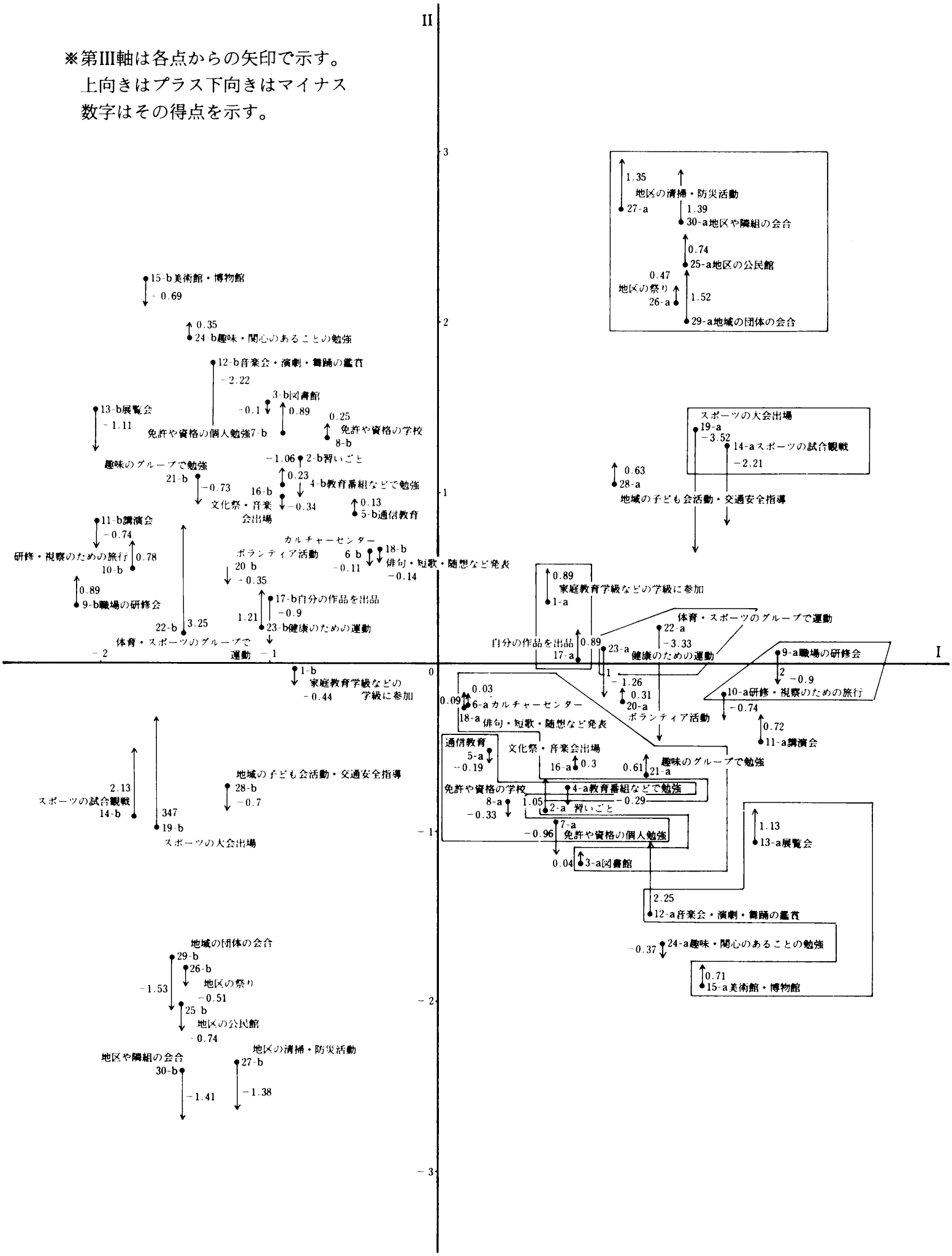
従って，この三本の軸を交又させることにより三次元のグラフを描くことができる。そして各質問に与えられた三つの数値をもとに各質問項目をグラフ上にプロットし，そのまとまり具合を見ることから類型化が可能になる。そこでまず30種の行動項目（各質問項目のa）をそれぞれの十一の記号の組み合わせにより位置づけられる空間にもとづき分類したのが表4－2である。

表4－2　「学習行動の類型(Ⅰ)」

類型 空間	類型 記号	項目
第一空間(A)	＋＋＋	1－a．家庭教育学級などに参加した。 27－a．地区の清掃活動などに参加した。 17－a．展覧会に作品を出品した。 28－a．子ども会活動などに参加した。 25－a．地区の公民館に行った。 29－a．青年団などの会合に出た。 26－a．地区の祭りなどに行った。 30－a．地区や隣組の会合に出た。
第二空間(B)	＋＋－	9－a．職場などの研修会・講習会に参加した。 14－a．スポーツの試合の観戦にでかけた。 19－a．個人や団体でスポーツの大会に出場した。 22－a．体育・スポーツのグループなどに入って運動した。 23－a．健康のため1人でなにか運動をつづけた。
第三空間(C)	＋－＋	2－a．先生について習いごとをした。 3－a．図書館に行った。 6－a．民間のカルチャーセンターで勉強した。 11－a．講演会に行った。 12－a．音楽会などの会に行った。 13－a．展覧会に行った。 15－a．美術館や博物館に行った。 16－a．個人や団体で音楽会などに出場した。 18－a．俳句などを雑誌などに発表した。 21－a．趣味のグループに入って勉強した。
第四空間(D)	＋－－	4－a．テレビやラジオの教育番組を利用して勉強した。 5－a．通信教育を利用して勉強した。 7－a．免許や資格を取るために個人で勉強した。 8－a．免許や資格を得るために学校に通った。 10－a．研修や視察のための旅行をした。 24－a．自分の趣味などについて勉強した。

更に，それぞれの空間の中で各項目がどのように関連しているかを見るために，各項目に与えられた3種の数値を基にグラフを描き，そのまとまり具合を図示したのが図4－1である。

図4－1　「カテゴリー・ウェイト値による学習行動分布図」（10^{-1}）



この表4－2と図4－1から判断するに，学習行動は次のような類型化が可能になる。

1．第一空間（A）では，地域活動型（1）と学級参加型（3）に分かれる。

2．第二空間（B）では，スポーツ娯楽型（1）とスポーツ学習型（2）に分かれる。

3．第三空間（C）では，教養学習型（1）と文化鑑賞型（2）に分かれる。

4．第四空間（D）は，資格学習型（1）である。

加えて，第二空間（B）の「9－a職場研修会」と第四空間（D）の「10－a研修，視察のための旅行」は，図4－1から判断するに，第II軸上では＋と－に分かれるが，実質的には近い距離にある。従って同一グループと考えられる。

以上のことから，学習行動の類型は，大きくは4グループ（(A) (B) (C) (D)）。その中においては8グループ（(A)－(1)・(3)，(B)－(1)・(2)，(C)－(1)・(2)，(D)－(1)，(B)－(3)＋(D)－(3)）に分けられる。（表4－3参照）

表4－3　「学習行動の類型（II）」

類型 大	記号	類型 小	項目
(A)	＋＋＋	(1)	27－a地区・清掃・防災，30－a地区会合，25－a地区公民館，26－a地区祭り，29－a地域団体会合，
		(2)*	28－a地域子供会，
		(3)	1－a学級参加，17－a作品出品，
(B)	＋＋－	(1)	19－aスポーツ大会出場，14－aスポーツ観戦，
		(2)	22－a体育グループ，23－a健康のため運動，
		(3)◈	9－a職場研修会，
(C)	＋－＋	(1)	6－aカルチャーセンター，18－a俳句等発表，16－a文化祭出場，2－a習いごと，21－a趣味のグループ，3－a図書館，
		(2)	13－a展覧会，12－a音楽会等鑑賞，15－a美術館・博物館，
		(3)*	11－a講演会，20－aボランティア，
(D)	＋－－	(1)	5－a通信教育，4－a教育番組，8－a免許学校，7－a免許個人，
		(2)*	24－a趣味・関心，
		(3)◈	10－a研修・視察，

注　○＊印は同じ大類型の中にあっても少し位置が離れているもの。

○◈印B(3)とD(3)はI軸を若干回転させると同じ小類型に属する。

今後，この実証的に得られた学習行動類型を，さらに属性とのクロスや各個人における行動比率などから，より詳細に吟味し，加えて学習意識との関わりを明らかにする事から，「学習意思」の実態を解明していきたい。（未完）＊

※・なお，この点については一部，第四回日本生涯教育学会にて発表。

・本調査のコンピューターによる統計処理は，本学教官の望月雄蔵先生に全面的な協力を願いました。

・本報告の表・図は本学部四年（社会教育研究室）内藤純一・深山孝之・滝多鶴代の協力により作成。